

「体験を楽しむ」

介護甲子園セミナファイナルが終了し、来年の2月27日に向けてネット投票があります。ちとせこまちもセミファイナルに選ばれました。大下施設長によるプレゼンが行われ200人近くの観客からの拍手を頂いておりました。一步一步、みんなが頑張っている想いを沢山の人の知ってもらいたいと思います。

さて、セミファイナルは東海ブロック、関西ブロック、関東ブロックと3つの地区にて大会規模が広がりました。もともと、第8回までは介護甲子園の決戦の舞台は、

エントリー選考 → 動画によるネット投票 → 勝ち残った6事業所が、会場でプレゼンテーションをおこない日本一を決める。

という流れで行われていました。

今回、新たな試みは、地区大会を行うことと、セミファイナルという正式な選考方法の追加でした。これは、かなりのチャレンジ目標です。

なぜならば、セミファイナルといっても、ほぼ決勝大会の規模を縮小しただけで、むしろ、選考事業所は、各ブロック10事業所と、本大会の約倍の関わりを要します。

そこまでして、なぜセミファイナル開催を決めたのか、

それは、本大会だけだと6事業所しかスポットライトが当たらない。

それをセミファイナルという形にすれば、30事業所がスポットライトに。

また、多くの地域の方たちが、介護を知るきっかけが増え、ファンも増える。

主役となる介護職の想いがより伝わり、介護甲子園の見方や理解が深まってくれるのでは、と。

そうになると、介護甲子園は、私も理事もすべてがボランティアで運営委員も有志のあつまりから運営されます。

そんな中、イベント運営が本業ではない、ほぼほぼ、介護がメインの仲間たちと開催されている分けです。

そして、役割の任命もかなりシンプルで、指名制。バトンを渡す仕組みです。

各ブロックの支部長は、役職を次の運営委員に任せ、その新たな部長に任命された人への成長のチャンスだ！と考え協力して関わります。

9回まで運営していると、メインで関わってくれている運営委員は、だいたい役職経験者になります。

そうすると、大変さや、本業との優先順位や、関わりやら、たくさんの応援者、巻き込み方やらを理解しております。  
任命された人のプレッシャーや葛藤を理解、大会の成功にたいして、支えていく共感がさらにアップします。

僕は、大会当日やリハーサルで伝えていることはシンプルで、介護甲子園という時間を最も楽しむこと。  
その主役は運営委員一人一人であり、その大会の成功は、プレゼンターがスポットライトがあたることで完成されます。

その結果は大成功まちがいなしならば、その時間を運営委員のみんなが、最も楽しむことが、

元気な業界、元気な介護職であると、観戦された人や関わってくれた人が印象づけてくれます。

そして、その成長体験や、楽しむと言うことを感じてくれた瞬間、次の日の職場でも、  
自分が源だと気付いてくれると思います。

「介護から日本を元気に！介護から日本をつくる！」これが、介護甲子園のスローガンです！

一日一日をご機嫌様に心を持っていくこと。

そして、責任やプレッシャーを体験することで、これからいろんな壁がきても、低く見えるような体験をたくさんすること。

そして、リーダーシップは、会場で運営した人は気づくはずです。

登壇者、観戦客からすれば、運営委員一人一人がその人のリーダーであり、頼られる存在になると。

自らがその時間の源。

だからいつも新しい発見と成長体験を楽しめるのだと思う。

介護甲子園サイトには30事業所の取り組みプレゼンテーション動画が9月25日～10月31日までアップされますので、  
ぜひ向学のためにも観てみてください。



フェイスブック始めました。  
お友達申請お待ちしております。

社会福祉法人 千歳会  
理事長 左 敬真

